

# 箱根の旅館建築

Hakone Ryokan architecture

## 箱根の旅館建築

平成31年3月 発行

発行者 箱根町文化遺産活性化実行委員会  
〒250-0315 神奈川県足柄下郡箱根町塔ノ沢74(福住楼内)

監修 箱根町教育委員会

この冊子は、平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産総合活用推進事業)の補助を受けて作成しています。



# はじめに

箱根は豊かな自然と温泉に恵まれ、江戸時代には「箱根七湯」と称された7か所の温泉場が湯治客によってにぎわっていました。明治時代になると、七湯の他の温泉場が開発され、それぞれの温泉場を結ぶ交通網が整備されました。多くの旅館やホテルは、より多くの宿泊客を呼び込むために、競うように新築や増改築を行い、来訪者がゆったりとくつろげるように、また、楽しみのある空間となるように様々な趣向を凝らし、こだわりの建物を作り上げました。この頃建てられた旅館やホテルの建物は、現役で使われているものも多くあります。長く守り継がれた建物の中に入ると、明治から昭和の初めにタイムスリップしたような錯覚を覚えるかもしれません。

この冊子では、箱根が近代化を進める中で建てられた旅館建築、ホテル、別荘建築などの中で重要文化財や、登録文化財になっているものを紹介します。

この冊子で建物について知り、実際に旅館やホテル、元別荘だった施設などを訪ねていってみてください。

# もくじ

福住旅館（金泉楼・萬翠楼） （別荘主屋・石倉）	6
福住楼（主屋）	11
一の湯旅館本館	14
元湯 環翠楼	16
三河屋旅館	18
箱根太陽山荘本館・別館	20
富士屋ホテル	22
箱根小涌園貴賓館	30



ふ は ら か



ふ は り ど ち

# この冊子でとりあげる 旅館建築と別荘建築

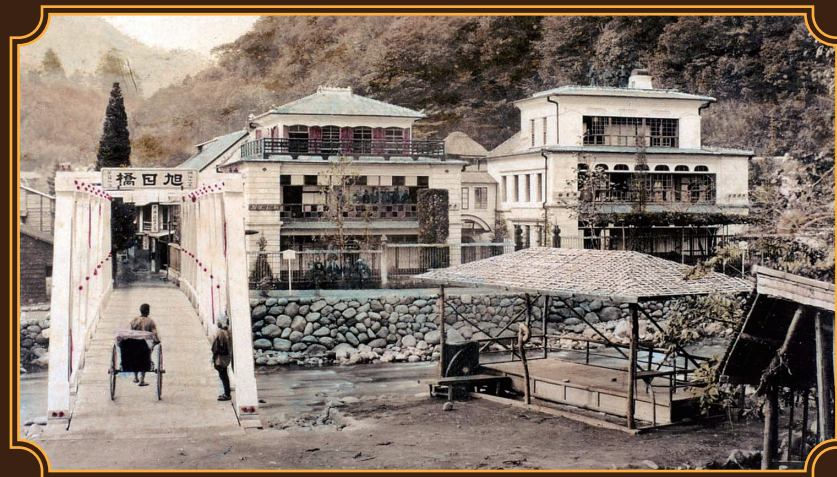




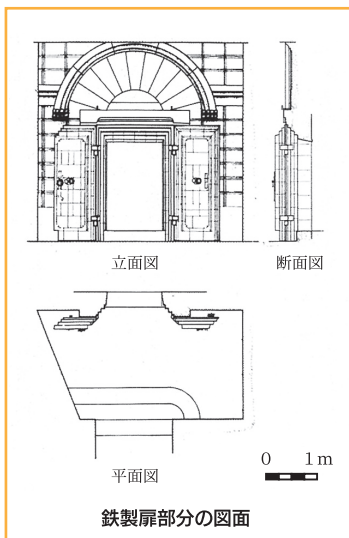
洋風の意匠・アールデコ風のデザイン



分厚い鉄製扉・防火扉のように分厚い



Kinsenro & Bansuiro Fukuzumi-Ryokan



### 田 石壁と鉄製扉

福住旅館の外観1階、2階部分の壁は地元産の石材「白石」を使っています。骨組み(支柱)は木造ですが、壁を石造りにしています。明治に入り、建物を建て直すことになった際に、江戸時代の火災を教訓にして、耐火性に優れた石壁の洋風建築として生まれ変わりました。

そのため、各棟の入口扉も上のイラストのように分厚い鉄製扉を使うこととなりました。

それ以降は、火事や災害に見舞われることもなく、現代にその姿を残しています。

### 福住旅館

## 金泉楼・萬翠楼

福住旅館は3代将軍、徳川家光が治めていた寛永2年(1625)に創業した老舗旅館です。現役の旅館で初めて、国の建造物の重要文化財に指定されました。また、当主である福住家は江戸時代を通じて、湯本村湯場筋(今の湯本駅周辺)の役人を代々務めた家柄で、箱根湯本の発展に尽力した家系です。

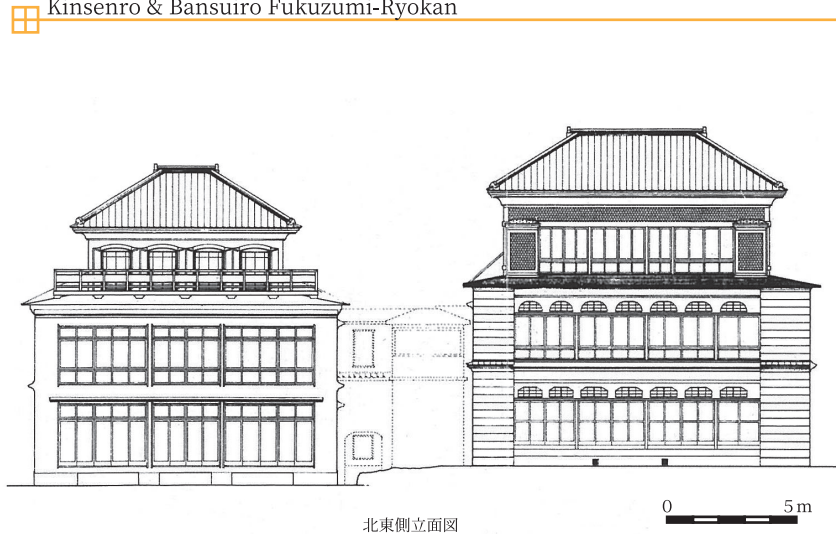
国道1号線から湯本橋を渡った、早川のほとりに2つの建物が並んで立っています。

2棟の建物には「金泉楼」「萬翠楼」の名が付けられています。なかでも「萬翠楼」の命名は明治維新三傑の木戸孝允です。建物は「擬洋風建築」という明治時代初期に多くみられるスタイルで作られています。

「擬洋風建築」とは、日本の大工が伝統的な木造建築の技術を使って骨組みなどを作り、その上に西洋建築の意匠(デザイン)を施した建築のこと。

福住旅館の建築に迫ります。





北東側立面図



花鳥風月や富士山が描かれた天井絵

建物の情報

住所 箱根町湯本 643  
 平成14年(2002)12月26日  
 国重要文化財(建造物)指定

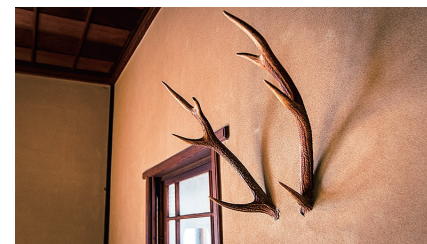
金泉楼  
 構造 木造(土台部分石積)3階建 寄棟 棧瓦葺  
 施工 三宅安七  
 年代 明治9年(1876)起工  
 明治10年(1877)竣工

萬翠楼  
 構造 木造(土台部分石積)3階建 寄棟 棧瓦葺  
 施工 三宅安七  
 年代 明治9年(1876)起工  
 明治11年(1878)竣工

問い合わせ先  
 萬翠楼 福住 0460(05)5531  
 URL <http://www.2923.co.jp>

田意匠・細工

建物の中は和風のデザインですが、室内や廊下、天井、階段など所々に洋風のデザインが施されている所が見られます。また、萬翠楼の15号室は天井に花鳥風月や富士山など華やかな天井画を楽しむことができます。また、建て主の遊び心がみられる部分もあります。鹿の角を使った洋服掛けや、自然のままの木の洞を使った欄間など、明治の遊びの文化を残していて、宿泊者を楽しませてくれます。



鹿の角を使った洋服掛け



木の洞を使った意匠



Fukuzumiro Shuoku (Main Building)



Fukuzumi-Ryokan Besso Shuoku/Ishigura



福住楼主屋は1世紀を越える京普請数寄屋造（京都スタイルの茶室風）の建築で竹を使ったしつらえがみどころです。  
そして、夏目漱石、島崎藤村、大佛次郎、吉川英治、そして阪東妻三郎など、多くの文化人に愛されてきたことからその魅力が感じられます。

「福住楼」は、江戸時代からの老舗旅館です。今の国道1号線沿いに移ってきたのは明治43年（1910）のことです。この建物は、そもそも明治7年（1874）から塔ノ澤村の総代を務めていた堀貞蔵が「玉の湯」という旅館を開業したことに由来します。その後、明治19年（1886）に日就社（現在の読売新聞社）の初代社長・子安峻に、玉の湯を売却し、翌20年（1887）にリニューアルオープンしました。今の玄関回りはリニューアルの時の作りです。その後「玉の湯」は経営者が移り変わり、塔ノ沢温泉で「福住楼」を経営していた熊本藩細川氏に仕えていた澤村高俊が共同経営することになります。その後、塔ノ沢温泉の大洪水で「福住楼」の建物が流失したため、澤村高俊は「玉の湯」の看板を「福住楼」に変えて経営することになりました。

## 福住楼・主屋



## 福住旅館 別荘主屋・石蔵

福住旅館の奥、湯坂山の山すそに長期滞在の宿泊者向けの離れとして使われていた建物です。「金泉楼」「萬翠楼」と違い、別荘風の数寄屋造りの建物で装飾などを簡素にし、落ち着いた雰囲気の間になっています。  
主屋の北側に石蔵があります。石蔵の外壁は「金泉楼」「萬翠楼」と同じ、「白石」が使われています。  
画家の平賀敬は晩年、この建物を借り受け住まいとし、平成12年（2000）に亡くなるまでここで作品を制作していました。平成30年（2018）まで平賀敬美術館として公開されていました。

### 建物の情報

住所	箱根町湯本 613
	平成15年（2003）4月8日
国登録有形文化財（建造物）登録	
主屋	構造 木造平屋 寄棟 棧瓦葺 年代 明治30年代
石蔵	構造 木造石造2階建 切妻 棧瓦葺
年代	明治時代 昭和8年（1933）移築







### 建物の情報

住所 箱根町塔ヶ澤74  
 平成15年4月8日  
 国登録有形文化財  
 (建造物)登録  
 構造 木造3階建 寄棟 鉄板葺  
 施工 鈴木勝蔵・輝之助  
 年代 明治20年(1887)頃  
 昭和初期  
 問い合わせ先  
 福住楼  
 0460(85)5601  
 URL <http://www.fukuzumiro.com>

客間や廊下などに趣向を凝らした竹細工のデザインを楽しむことができます。  
 また、欄間も部屋ごとに異なるデザインになっていて、いつでも新しい発見ができるようになっています。

### 意匠・細工



地下1階にある大丸風呂  
 外の風景も美しい

### 7つの棟

福住楼は、国道1号線側に玄関があります。玄関側から見ると小さな建物のように見えますが、一度中に入ると、奥行きが大変深いことに驚くことでしょう。  
 建物は地下1階から地上3階までの4層になっていて、庭を囲んで角度を変えて作られていて、それぞれの客間や浴場から四季折々の様々な風景を楽しめるように趣向が凝らされています。



Ichinoyu-ryokan/Honkan

# 一の湯旅館本館

「一の湯旅館」は江戸時代初期の寛永7年(1630)、徳川家光が将軍の頃に創業された老舗旅館です。創業より16代にわたり、経営が引き継がれている稀な旅館です。創業した小川知頼は、元北条家の家臣と言われ、北条家滅亡後、箱根湯本に暮らしていたと言われています。この小川知頼が掘り当てた温泉が、塔ノ沢温泉の開湯との伝説もあります。温泉は、源泉かけ流しで、早川渓谷を眺めながら、江戸時代の温泉風情を楽しめる旅館です。

## 建物の情報

住所 箱根町塔之澤90番地1・89番地1  
 平成21年(2009)8月7日  
 国登録有形文化財(建造物)登録  
 構造 木造(部コンクリートブロック造石造)  
 地上4階地下1階建 寄棟  
 4階部分・入母屋銅板葺  
 3階部分 寄棟(部陸屋根)亜鉛メッキ銅板葺  
 施工 津山工務店(現・津山建設)  
 年代 明治40年(1907)頃  
 問い合わせ先  
 塔之澤一の湯本館 0460(85)5334  
 URL:<http://www.ichinoyu.co.jp/honkan/>

## 田 大広間「神山」

現在の建物の基本ができたのは明治40年(1907)頃と言われています。その後、現在に至るまで、何度も増改築が行われ、当時の流行を先取りした部屋が作られてゆきました。

増改築を行った一の湯本館の中で最上階にある大広間「神山」は一見の価値あります。

大正11年(1922)の改築時に作られた、88畳の広間と舞台があり、当時は箱根最大の大広間として評判になりました。広さだけではなく、和の意匠を凝らした格天井や欄間に、天井の飾りやシャンデリアという洋風の意匠をちりばめた、豪華な和洋折衷のしつらえがとても美しい大広間です。

完成時には畳敷きでしたが、現在は板張り床になっていてダイニング(レストラン)となっています。

また、客室は建築家「吉田五十八」が改修を担いました。吉田は昭和40年代の代表的な近代数寄屋建築家で、大磯町の吉田茂邸や、銀座の歌舞伎座の改修などを行った著名な建築家です。

明治から大正、昭和と様々な建築の見どころがふんだんに楽しめる旅館です。



格天井

「格天井」とは建物の梁や桁を隠す天井の造り方です。平安時代の書院建築の手法で、天井高が低くなると和風建築の特徴である穏やかな空間が生まれます。



折上部分が2段になっています。

大広間  
環翠楼には、大広間が3室あり、天井の造りは、全て中央部分を二重に折り上げた「二重折上格天井」です。北棟には72畳の大広間「蓬仙閣」があります。南棟には二つの大広間があり、「万象閣」は、60畳の広さに舞台が別で付いています。もう一つは「神代閣」で、付属の部屋を含めると100畳にもなる広間です。

天井様式には様々な造りがあり、「二重折上格天井」が最も格式の高い造りです。例えば、京都の二条城書院では、將軍の座る位置を「二重折上格天井」、その下手に「折上格天井」、その下手に「格天井」となっています。

田 大広間

田 木造4階建て北・南棟  
現在の北棟は大正8年(1919)に古くなった建物を大改修したものです。南棟は大正12年(1923)の関東大震災で被害を受けたため、壊れた建物を転用し、全く新しい形に復旧したものです。北棟南棟ともに現在では珍しい木造4階建てで、高い建築技術を見ることが出来ます。また、北棟と南棟は渡り廊下でつながっていますが、北棟の1階は南棟の2階と、北棟の2階は南棟の3階と別館の1階がつながっているというようにまるで迷路のように建物が接続しています。



Motoyu Kansuiro



建物の情報

住所 箱根町塔之澤<sup>88</sup>  
平成13年(2001)8月28日 国登録有形文化財(建造物)登録  
本館北棟  
構造 木造(部)コンクリートブロック造)4階建  
入母屋 波板鉄板葺  
大工 井上米吉 年代 大正8年(1919)改修  
本館南棟  
構造 木造四階建 入母屋 銅板瓦葺葺  
大工 井上米吉  
年代 大正8年(1919)竣工、13年(1924)改修  
別館  
構造 木造3階建 入母屋 波板鉄板葺 年代 明治時代  
問い合わせ先 元湯 環翠楼 0460(85)5511  
URL: <http://www.kansuiro.co.jp/>

元湯 環翠楼

環翠楼は国道1号線沿い、早川の流れを一望できるように建てられています。塔ノ沢では一の湯とともに最も古くからある温泉旅館で、「元湯」の名で知られています。「環翠楼」の名は、伊藤博文の漢詩の中の3文字から命名されました。明治23年(1890)に本館を訪れた伊藤は、環翠楼の主人(当時はまだ、「鈴木楼」という名前でした)にその漢詩を送ったそうです。



漆喰が使われたラウンジ「浅間」の天井



数寄屋風の飾り窓・夜になるとなお美しい。

### 建物の情報

住所 箱根町小涌谷503番地1  
 平成21年(2009)8月7日  
 国登録有形文化財(建造物)登録  
 構造 木造2階建て・一部平屋建て  
 入母屋造・切妻造 銅板瓦葺葺・スレート葺  
 年代 大正6年(1917)頃竣工 大正13年(1924)頃増改築  
 問い合わせ先  
 三河屋旅館 0460(8)2231  
 URL:<http://www.hakone-mikawaya.com/>

玄関から中に入ると廊下に数寄屋風の飾り窓があります。建物内には他にも数寄屋風の意匠が各所に設けられていて、日本の装飾文化を楽しむことができます。

また、明治から大正にかけての一時期、外国人の宿泊客にあわせて、ホテルとして営業していたころの名残も各所にみられます。正面玄関脇のラウンジは天井に洋風のデザインが施されています。帳場の天井にはガラスブロックがはめられています。これは明かり取りのためにつけられていました。

以上のように、当時のモダンで先進的な設計に和の様式美が表現されている点を楽しめる旅館建築です。

### 田 数寄屋風の装飾 洋風のデザイン



Mikawaya Ryokan

## 三河屋旅館

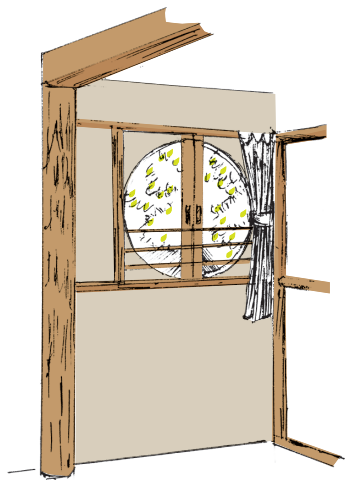
三河屋旅館は明治16年(1883)創業と云われる老舗旅館です。創業者は榎本猪三郎・恭三親子で、小涌谷を温泉地として開発した横浜蓬萊町民の一人です。

もともと小涌谷は「小地獄」と言われていた硫黄山で、宮ノ下や芦之湯などの温泉地に遊びに来た人々がその景色を見るだけの場所でした。温泉は湧きだしていましたが、あまりにも熱すぎて浴場向きではありませんでした。そこに川の清水を引いてきて、温泉と合わせることで、今の小涌谷の温泉地ができあがったのです。

その後、息子恭三は小涌谷の景観をよくするため、桜を植樹するなど地元に貢献し、後に神奈川県議会副議長を務めるまでになります。

国道1号線を芦ノ湖方面に向かい、岡田美術館の隣、右手の車寄せに入ると三河屋旅館があります。建物の外観の特徴は正面の唐破風の庇です。「唐破風」は東京の歌舞伎座や松山の道後温泉などでもみられます。日本特有の屋根の形なので、海外からの宿泊客に和風の雰囲気を感じてもらっていることでしょう。





客室の個性的な飾り窓



露地風の廊下。庭園にいるようなデザイン

建物の情報

住所 箱根町強羅1330-1275  
 平成18年12月19日 国登録有形文化財(建造物)登録  
 構造 木造3階建て 寄棟造 棧瓦葺一部鉄板葺  
 本館 大英工務店  
 年代 昭和15年(1940)竣工 昭和26年(1951)改修  
 別館 木造3階建 入母屋造 棧瓦葺一部鉄板瓦葺セメント葺  
 施工 不明(改修時 双葉工務店)  
 年代 大正後期竣工 昭和28年(1953)改修  
 問い合わせ先  
 箱根太陽山荘 0460(02)333333  
 URL: <http://www.taiyosanso.com/>

田舎風の意匠と客室のデザイン

本館内部、3階の廊下は床の仕上げが黒玉石の洗い出し仕上げになっており、その上に木道をイメージした桧の板を敷いて露地風(茶室の庭風)になっています。また、階段の手すりや柱に古い伝馬船の材料を転用して、遊びの要素を加えています。  
 本館・別館の客間は、床の間周辺のデザインと外の眺めを部屋ごとに変えて、客室ごとの特徴を出し、それぞれ個性的に仕上げられています。



Hakone Taiyo-Sanso Honkan/Bekkan

箱根太陽山荘本館・別館

箱根太陽山荘本館は、昭和15年(1940)に警視庁の保養施設として建てられました。戦時中の一時期、ドイツ領事館が空襲から疎開する際に事務所として活用されました。

戦後、昭和22年(1947)に「和香荘太陽旅館」として営業を始め、翌23年(1948)には、隣にあった、大正後期の別荘建築を買収し、別館としました。その後、昭和28年(1953)に別館を改修し、現在の形になりました。昭和43年(1968)に国民宿舎(民営)に営業形態を変更しています。

本館と別館は道路を挟んで建ており、本館の3階と別館の2階が、渡り廊下で繋がっています。

本館は3階にある朱赤の擬宝珠高欄が特徴で、湯治場の風情を残す和風旅館建築です。対して、別館は南側の中央に入母屋屋根を設けることで、格調の高い佇まいをしています。





FUJIYA-HOTEL

## 富士屋ホテル

富士屋ホテルは明治11年(1878)に国内では最初期に開業したリゾートホテルです。創業者、山口仙之助は、この地で江戸時代より営業していた老舗旅館「藤屋旅館」を買収し、名前を富士山にちなんで、「富士屋ホテル」としました。

創業時より外国人向けのホテルとして営業を開始しましたが、隣接する老舗旅館の奈良屋も外国人客を見込んでいたので、激しい顧客獲得競争に発展しました。

その後、明治26年(1893)に富士屋ホテルと奈良屋は協定を結び、奈良屋は日本人向け、富士屋ホテルは外国人専用となりました。この時期から昭和初期にかけて建物の拡大が進み、昭和11年(1936)にほぼ現在の形になりました。

昭和20年(1945)、進駐軍に接収され一般営業は停止されました。昭和29年(1954)に通常営業が開始されるまで、米軍の上級将校の保養施設となりました。

その後、昭和30年代の高度成長期に外国人観光客の増加も追い風に順調に発展してゆきました。

昭和41年(1966)、創業一族の山口家から国際興業株式会社へ経営が譲渡され、現在の富士屋ホテルとして営業をしています。

## 田 数多くの有形文化財群

富士屋ホテルの建築物は6棟の登録有形文化財がありません。古い順から紹介します。

- ① アイリー 明治17年(1884)竣工
- ② 本館 明治24年(1891)竣工
- ③ 菊華荘 明治28年(1895)竣工
- ④ 1・2号館 明治39年(1906)竣工
- ⑤ 食堂 昭和5年(1930)竣工
- ⑥ 花御殿 昭和11年(1936)竣工

その他、貴重な文化遺産となる建物が残されています。

### 富士屋ホテルの情報

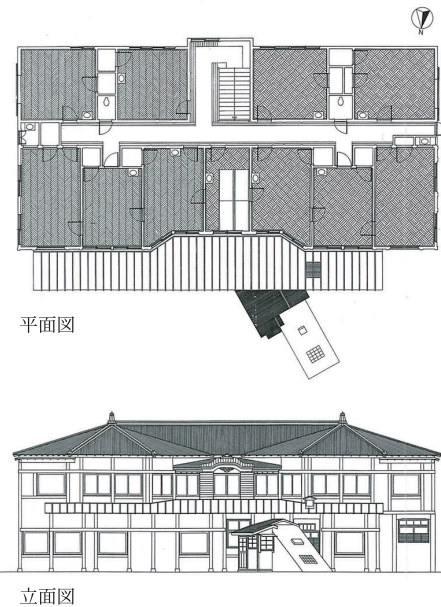
住所 箱根町宮ノ下359  
 平成9年(1997)12月12日  
 登録有形文化財(建造物)登録  
 問い合わせ先  
 富士屋ホテル 0460(02)2211  
 URL <https://www.fujiyahotel.jp/>



## アイリー

現存する建物の中でもっとも古く、明治16年(1883)宮ノ下の大火で全ての建物が消失した後、最初に建てられたものです。

アイリーとは「鷹の巣」の意味で、外国人専用のリゾートホテルとして運営していたなごりです。



当初は平屋で今の本館の前に建っていました。本館完成後、2度の移築を経て、今の花御殿が立つ場所に昭和10年(1935)移築され、1階部分を新築し、既存の建物を上に乗せ、2階建てに改築しました。

## 建物の情報

構造 木造2階建(1階腰壁部分鉄筋コンクリート)  
寄棟 波形垂鉛引鉄板葺 明治17年(1884)竣工



## 本館

明治24年(1891)竣工のフロントやラウンジなどがある富士屋ホテルの中心施設です。白く塗られた板張りの外壁(下見板張り)に鎧戸付きの上げ下げ窓が設けられている洋風のデザインが基調となっていますが、屋根部分の随所に和風のデザインが施されるという珍しい建築です。

特に正面中央の玄関ポーチの屋根(庇)部分は唐破風屋根、その上には千鳥破風付きの入母屋屋根になっており、まるで城の天守閣の屋根のようです。また、屋根には大きな鬼瓦や、孔雀・鳳凰が彫刻された懸魚(屋根の破風板につけて棟木や桁の木口を隠す彫刻や透彫りの飾り板)も和のデザイン上のアクセントになっています。

建物内部も当初は洋風のデザインを基調に作られました。その後、尾長鶏・梅の花・手摺に竜など様々な和風の彫刻を加えてゆきました。

そうして建物の中と外合わせて、個性的な和洋折衷の建物として現在に残されています。

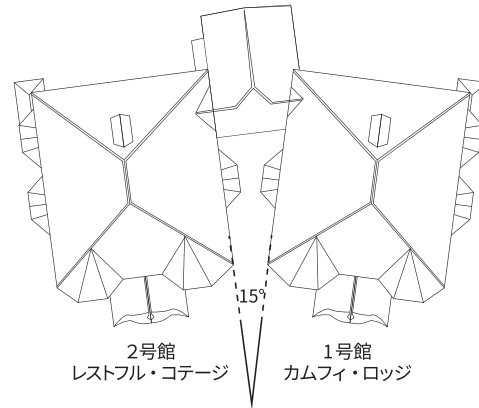
## 建物の情報

構造 木造三階建 入母屋 棧瓦葺  
施工 河原兵次郎施工 明治24年(1891)竣工

## 西洋館 (1号館・2号館)

西洋館とも言われる客室で、左右対称の建物が約15度の角度でわずかに向き合うような形で並んでいます。向かって右側が1号館「カムファイ・ロッジ」、左側が2号館「レストフル・コテージ」です。

アイリーや本館と同様、八角形を巧みに取り入れた外観、鏡戸付きの上げ下げ窓など洋風を基調としたデザインに、唐破風の軒を持つ玄關ポーチ、玄關扉の両脇に花灯窓



構造

木造2階建  
寄棟 棧瓦葺  
明治39年(1906)  
竣工

### 建物の情報

(源氏窓)と和風のデザインを設けていて、和洋のコントラストが特徴になる建物です。外壁は現在は亜鉛引きの鉄板を張っていますが、以前は漆喰塗で印象が随分と異なります。

室内の床は寄木張り、壁は漆喰塗、天井のデザインなどは洋風デザインですが、こちらも随所に和風のデザインを施して、宿泊客である外国人を喜ばせたことでしょう。

建物の起工は明治38年(1905)の日露戦争終結時です。戦後の好景気で宿泊客をたくさん迎えたそうです。



食堂棟  
外観

天井の  
植物画

ダイニング  
ルーム

柱の  
根元の  
彫刻



## 食堂棟

昭和5年(1930)竣工の1階が鉄筋コンクリート、2階が木造の2階建ての建物です。また、屋上中央部には「昇天閣」と名付けられた二重塔が設けられています。この塔の先端には避雷針が付いていて竜の彫刻で覆い、重厚な雰囲気を出しています。

外観は次に紹介する花御殿と似ていて、緑青の屋根に黄土色の壁、2階には赤い高欄がぐるりと巡っています。

このデザインは、富士屋ホテル3代目社長の山口正造の意見が強く反映しています。それまでは洋風建築に和風のアクセントを加えるスタイルを初代山口仙之助から採用していましたが、正造は外国人には純和風デザインの方が喜ばれると考えたそうです。

中に入るとメインダイニング、バー、グリルと3つの施設が入っています。中でもメインダイニングには天井に636種の高山植物が描かれています。

また、柱の根元に顔の彫刻が設けられています。まるで東南アジアの木彫り彫刻のようです。その顔は正造が自らをモデルにして作らせたものだそうです。「常に目をひかせているから、しっかり働くように」という意味を込めたとも言われています。

### 建物の情報

構造 2階建(1階鉄筋コンクリート造・2階木造)

入母屋 波形亜鉛引鉄板葺及び銅板葺

施工 河原徳次郎施工 昭和5年(1930)竣工



## 花御殿

国道1号線を見下ろすようにそびえ建つ5階建て、富士屋ホテルを象徴する建物です。海外では「フラワーパレス」と称されています。

鉄筋コンクリート造りですが、1階部分の外壁は正倉院の校倉造風のデザインになっていて、黄土色のモルタルで作っています。



ホテルのものとしては日本初といわれる屋内温泉プール

2階と3階には朱で塗られた欄干が食堂棟と同じようにめぐっています。

屋根はお寺や神社のように緑青色の銅板葺きの上、千鳥破風・入母屋造という点も純和風のデザインとなる重要なポイントです。

43室ある客室には全て花の名前が付けられています。また、客室一つ一つに、花の装飾やしつらえがされています。「花御殿」の名前の由来です。

かつて使われていた、各部屋の名前にちなんで作られた花が描かれたキーホルダーが今でも飾られています。

### 建物の情報

構造 鉄筋コンクリート造 地上5階・地下1階建て  
 千鳥破風付入母屋 銅板瓦葺葺  
 施工 河原徳次郎施工 昭和11年(1936)竣工



室内のしつらえ



かつて使われていたキーホルダー

※2018年4月からの耐震改修工事を経て、一部、内装等が更新される場合がございます。

### 建物の情報

構造 木造平屋 入母屋 棧瓦葺  
 設計・施工 宮内庁内匠寮 明治28年(1895)竣工



## 田菊華荘

明治28年(1895)に富美宮允子内親王の避暑のための宮ノ下御用邸として造営されたものです。

和洋折衷の意匠が特徴の富士屋ホテルにあって、純和風の別荘建築が特徴です。また、御用邸の用地の大部分は山口仙之助の所有地でした。

大正時代には皇太子時代の昭和天皇が避暑に訪れたりしていました。戦後昭和21年(1946)に富士屋ホテルに払い下げられ、「菊華荘」と名付けられました。

増改築や関東大震災による被害など手が加えられているので、創建当時の姿から変わっていますが、御座所部分は創建当時の雰囲気が残っています。

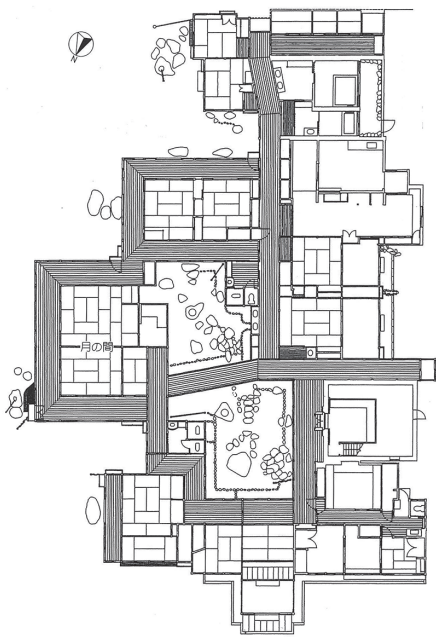
建物の中に入ると、過度な装飾のない落ち着いた佇まいで、当時の技術の高さやよい材料を使っている部分などを見ることができでしょう。

屋根は中央部分をふくらませた「むくり屋根」となっていて、やわらかい印象があります。

御用邸として使われていただけあって一歩敷地に入ると静けさを感じる落ち着いた空間を楽しめます。

建物の情報

住所 箱根町二ノ平1297  
 平成13年(2001)11月20日  
 登録有形文化財建造物指定  
 構造 木造平屋 入母屋造 寄棟造 棧瓦葺  
 一部亜鉛引鉄板及銅板 文字葺  
 設計・施工 今井平七  
 年代 大正7年(1918)上棟  
 問い合わせ 箱根小涌園 04600828050  
 URL: <https://www.ten-yu.com/kihinkan.html>



田 貴賓館・二つの中庭

貴賓館は中庭を二つ持ち、長い廊下でそれぞれの居室をつないでいます。どの部屋からも京都の庭師を箱根まで呼んで作らせたという広々とした日本庭園ないしは建物の中にある中庭を楽しめるように工夫をこらしています。

また、湿気の対策で、床下一面に粉にした墨を厚さ30cmほど敷き詰める等、工夫がなされています。



Hakone Kowakien Kihinkan

箱根小涌園  
 貴賓館

温泉テーマパーク「ユネッサン」の裏手に和風建築が2棟建っています。広々とした庭園を持つ平屋建ての建物が「貴賓館」、ひときわ大きな屋根が目を引く建物は「迎賓館」と呼ばれています。

「貴賓館」は明治の終わりから昭和の初めにかけて藤田組(藤田財閥)を率いた実業家藤田平太郎の別荘として建てられました。昭和23年(1948)にこの建物で旅館を開業したのが、現在の箱根小涌園の原点です。建物は、大正7年(1918)上棟で、完成まで3年もかけるほど平太郎はこの建物に凝ったといわれています。

「迎賓館」は明治8年(1875)に建てられた、愛甲郡津村(今の愛川町)にあった名主の家を昭和28年(1953)に移築したものです。当初、茅葺屋根でしたが、大正3年(1914)にイギリスから輸入された波板鉄板で葺かれています。2階は養蚕のための60畳もの広大な部屋になっており、床は通気性を高めるため、竹張りになっていました。

二つの文化財として登録された建物は、ユネッサンの飲食店として現在も活かされています。